

September 1, 2020

【前日の為替概況】ドル円、菅官房長官の総裁選出馬意向報道を受けて 106.10 円まで反発

31日のニューヨーク外国為替市場でドル円は反発。終値は105.91円と前営業日NY終値(105.37円)と比べて54銭程度のドル高水準。「菅義偉官房長官が自民党総裁選に出馬の意向」との報道を受けて、安倍政権の政策が継続されるとの期待が高まり円売り・ドル買いが進んだ東京市場の流れを引き継いだ。自民党総裁に関しては、海外市場でも「麻生派が菅官房長官の支持を決め、河野太郎防衛相は出馬を見送る意向」「石破茂元幹事長は総裁選に立候補する方針を固めた」などと伝わった。

NY市場に入ると、ユーロ円やポンド円などクロス円の上昇につれた円売り・ドル買いが出て、106.10円と日通し高値を付けた。ただ、対ユーロなどでドル安が進んだ影響を受けたため上値は限られた。月末を迎えたロンドンフィキシングに絡んだドル売りのフローが観測されると105.78円前後まで下押しした。

クラリダ米連邦準備理事会(FRB)副議長は「状況が著しく変化した場合、イールドカーブ・コントロール(YCC)は再評価されるだろう。米連邦公開市場委員会(FOMC)は選択肢として残しておくべきだ」と述べ、YCC導入の可能性に含みを残した。

ユーロドルは続伸。終値は1.1936ドルと前営業日NY終値(1.1903ドル)と比べて0.0033ドル程度のユーロ高水準。ユーロ高・ドル安が進んだ欧州市場の流れを引き継いでNY市場でもユーロ買い・ドル売りが先行。月末のロンドン・フィキシングに絡んだドル売りが出ると一時1.1966ドルと18日に付けた約2年3カ月ぶりの高値に面合わせした。主要通貨に対するドルの値動きを示すドルインデックスは一時91.99と2018年5月以来約2年4カ月ぶりの低水準を付けた。

ロンドン・フィキシング通過後は利食い売りなどが出て1.1926ドル付近まで小緩んだ。

ユーロ円は反発。終値は126.41円と前営業日NY終値(125.39円)と比べて1円02銭程度のユーロ高水準。菅官房長官が安倍晋三首相の後継になれば、経済成長を重視し積極的な財政・金融政策を講じるアベノミクス路線を踏襲するとの思惑から円売り・ユーロ買いが優勢となった。24時過ぎに一時126.85円と昨年3月5日以来約1年半ぶりの高値を付けた。ただ、ロンドンフィックス後はユーロドルが伸び悩み、ダウ平均が290ドル超下落した影響でユーロ円も126.30円付近まで上値を切り下げた。

南アフリカランドは軟調だった。与党・アフリカ民族会議(ANC)の内部対立が内閣改造につながるとの懸念から通貨ランドを売る動きが広がった。ドルランドは16.9700ランド、ランド円は6.23円までランド安に振れた。同国株式市場で代表的な株式指数である「FTSE/JSEトップ40」指数は1%超下げた。

【本日の東京為替見通し】ドル円、FRB「2%平均物価目標」と「アベグジット」で伸び悩みか

本日の東京外国為替市場のドル円は、米連邦準備理事会(FRB)による「2%平均物価目標」を受けた低金利政策の長期化観測と安倍首相の辞任によるアベノミクス終了(アベグジット(ABEXIT))懸念から上値が重い展開が予想される。

ドル円は、27日のジャクソンホール会合でのパウエルFRB議長の「2%平均インフレ目標」の導入表明を受けて、9月15-16日の米連邦公開市場委員会(FOMC)でフォワードガイダンスの強化、量的金融緩和の拡大観測が高まっていることによるドル売り圧力が上値を抑えている。

安倍首相の辞任表明は、アベノミクス(日本株買い・円売り)終了(アベグジット)懸念で、円買い要因となるものの、菅官房長官の総裁選出馬意向を受けて、アベノミクス路線の継承となる「スガノミクス」期待から、ドル円の値を支える要因となることで、9月14日の自民党総裁選に向けて、予断を許さない状況が続くことになる。

アベノミクスの「3本の矢」(大胆な金融緩和・機動的な財政出動・成長戦略)の「大胆な金融緩和」に関しては、政府・日銀の共同声明があることで、黒田日銀総裁による量的金融緩和と政策は任期の2023年4月まで継続することが予想される。

ドル売り材料としては、トランプ米政権と議会民主党との新型コロナ景気対策法案を巡る協議が難航していること、11月の米大統領選挙への警戒感、米中対立激化懸念、などが挙げられる。

ドル買い材料としては、米中第1段階通商合意の履行状況を検証する電話会議が開催されたこと、南シナ海や台湾を巡る米中の局地的・偶発的な軍事衝突懸念による有事のドル買い、などが挙げられる。

豪準備銀行(RBA)は、政策金利0.25%を据え置くことが予想されており、注目ポイントは、声明での新型コロナウイルス拡大懸念や対中関係悪化懸念に対する追加緩和、マイナス金利への言及となる。

【本日の重要指標】 ※時刻表示は日本時間

<国内>

- 08:30 ◎ 7月完全失業率（予想：3.0%）
- 08:30 ◎ 7月有効求人倍率（予想：1.08倍）
- 08:50 ◇ 4-6月期の法人企業統計調査（法人季報、ソフトウェアを含む設備投資額、予想：前年比▲4.0%）
- 自民党総務会で総裁選日程を決定

<海外>

- 07:45 ◎ 7月ニュージーランド（NZ）住宅建設許可件数
- 10:30 ◎ 7月豪住宅建設許可件数（予想：前月比▲2.0%）
- 10:30 ◇ 4-6月期豪経常収支（予想：130億豪ドルの黒字）
- 10:45 ◎ 8月Caixin中国製造業購買担当者景気指数（PMI、予想：52.5）
- 13:30 ☆ 豪準備銀行（RBA）政策金利発表（予想：0.25%で据え置き）
- 16:00 ◇ 8月トルコ製造業PMI
- 16:30 ◎ デギンドス欧州中央銀行（ECB）副総裁、オンラインイベントに参加
- 16:30 ◇ 8月スイスSVME購買部協会景気指数（予想：51.6）
- 16:50 ◎ 8月仏製造業PMI改定値（予想：49.0）
- 16:55 ◎ 8月独製造業PMI改定値（予想：53.0）
- 16:55 ◎ 8月独雇用統計（予想：失業率6.4%／失業者数変化▲2000人）
- 17:00 ◎ 8月ユーロ圏製造業PMI改定値（予想：51.7）
- 17:30 ◇ 7月英消費者信用残高（予想：8億ポンド）
- 17:30 ◇ 7月英マネーサプライM4
- 17:30 ◎ 8月英製造業PMI改定値（予想：53.3）
- 18:00 ◎ 7月ユーロ圏失業率（予想：8.0%）
- 18:00 ☆ 8月ユーロ圏消費者物価指数（HICP）速報値（予想：前年比0.2%）
- 18:00 ☆ 8月ユーロ圏HICPコア速報値（予想：前年比0.8%）
- 21:00 ☆ 4-6月期ブラジル国内総生産（GDP、予想：前年同期比▲10.6%）
- 22:45 ◎ 8月米製造業PMI改定値（予想：53.6）
- 23:00 ☆ 8月米ISM製造業景気指数（予想：54.6）
- 23:00 ◇ 7月米建設支出（予想：前月比1.0%）
- 2日 02:00 ◎ ブレイナード米連邦準備理事会（FRB）理事、講演
- 2日 03:00 ◎ クノット・オランダ中銀総裁、講演
- 2日 03:00 ◎ 8月ブラジル貿易収支（予想：68.48億ドルの黒字）

※「予想」は特に記載のない限り市場予想平均を表す。▲はマイナス。

※重要度、高は☆、中は◎、低◇とする。

※指標などの発表予定・時刻は予告なく変更になる場合がありますので、ご了承ください。

【前日までの要人発言】

31日 15:27 インド軍声明

「中国が東ラダックの国境紛争地域で挑発的な軍事行動をとった」

「インドと中国軍の高官は騒動を解決するために協議中」

31日 16:57 中国外務省

「インドとの国境紛争について、中国の国境警備隊は支配地域から出ていない」

31日 21:39 シュナーベル欧州中央銀行(ECB)専務理事

「ユーロ圏の経済活動は ECB のベースライン予測に沿ったもの」

「ベースライン予測に沿っているため政策の調整は必要ない」

「パンデミック緊急購入プログラム(PEPP)の額は適切」

31日 22:05 クラリダ FRB 副議長

「低失業率だけでは FRB の利上げを正当化するには十分ではない」

「イールドカーブターゲティングのメリットは少ない」

「状況が著しく変化した場合、将来的にイールドカーブ・コントロール(YCC)は再評価される可能性」

「非常に強力な世界的なディスインフレカがある」

31日 23:12 ラマポーザ南ア大統領

「南アは新型コロナウイルスの感染ピークは過ぎた」

31日 23:46 ポスティック米アトランタ連銀総裁

「経済の回復は長期にわたり、とても不規則になるだろう」

「景気減速の兆候はいくつかある」

「7月と8月経済の回復は横ばいになっている」

1日 01:29 ビーガン米国務副長官

「大統領選挙前にインドと通商協定が結ばれる可能性がある」

1日 02:08 デイリー米 SF 連銀総裁

「米国の賃金上昇は低賃金労働者の雇用喪失を反映し、雇用市場の回復ではない」

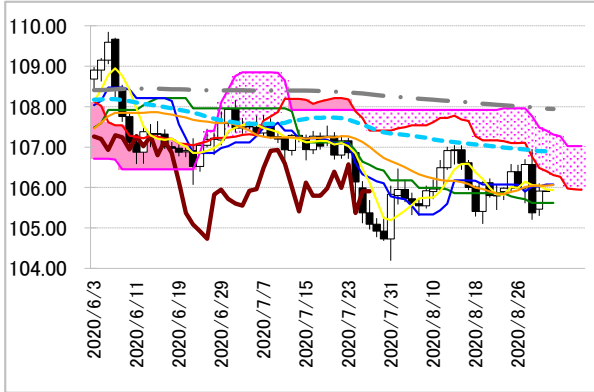
1日 06:33 ムニューシン米財務長官

「マコーネル上院院内総務が来週新型コロナウイルス救済法案をもう一つ導入することを望んでいる」

「1兆で足りないのであれば、更に増やすことができる」

※時間は日本時間

〔日足一目均衡表分析〕

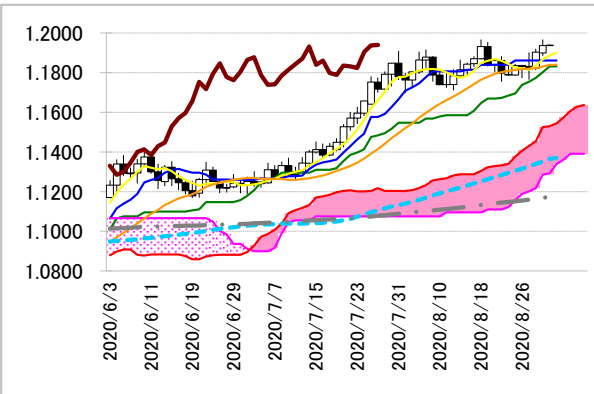


<ドル円=雲の下限線を抵抗に戻り売りスタンス>

陽線引け。一目・転換線は基準線を上回り、遅行スパンは実線を上回り、一目・雲の下で引けているものの、買いシグナルが優勢な展開となっている。しかし、31日の孕み線での終値が28日の大陰線の実体部の中心値や転換線に届かなかったことで、反落の可能性が示唆されている。

本日は、雲の下限を抵抗に戻り売りスタンスで臨み、同線を上抜けた場合は手仕舞い。

レジスタンス1	106.40(日足一目均衡表・雲の下限)
前日終値	105.91
サポート1	105.20(8/28 安値)
サポート2	104.68(7/30 安値)

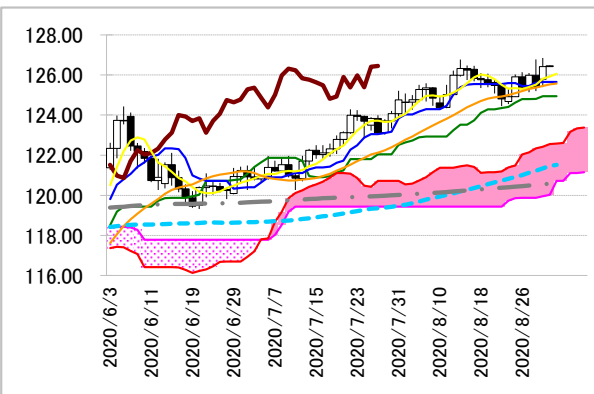


<ユーロドル=転換線を支持に押し目買いスタンス>

陽線引け。一目・転換線は基準線を上回り、遅行スパンは実線を上回り、一目・雲の上で引けていることで、三役好転の強い買いシグナルが点灯中。2手連続陽線で転換線を上回って引けていることで、続伸の可能性が示唆されている。

本日は、転換線を支持に押し目買いスタンスで臨み、同線を下抜けた場合は手仕舞い。

レジスタンス1	1.1966(8/31 高値)
前日終値	1.1936
サポート1	1.1860(日足一目均衡表・転換線)

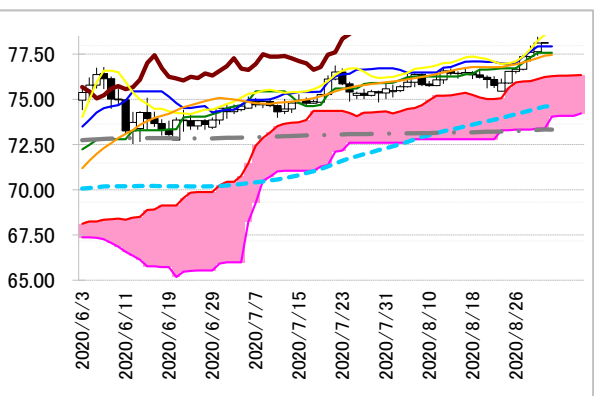


<ユーロ円=転換線を支持に押し目買いスタンス>

陽線引け。一目・転換線は基準線を上回り、遅行スパンは実線を上回り、一目・雲の上で引けていることで、三役好転の強い買いシグナルが点灯している。均衡表が好転し、転換線を上回って引けていることで、続伸の可能性が示唆されている。

本日は、転換線を支持に押し目買いスタンスで臨み、同線を下抜けた場合は手仕舞い。

レジスタンス1	126.85(8/31 高値)
前日終値	126.41
サポート1	125.65(日足一目均衡表・転換線)



<豪ドル円=転換線を支持に押し目買いスタンス>

陽線引け。一目・転換線は基準線を上回り、遅行スパンは実線を上回り、一目・雲の上で引けていることで、三役好転の強い買いシグナルが点灯中。6手連続陽線で転換線を上回って引けていることで、続伸の可能性が示唆されている。

本日は、転換線を支持に押し目買いスタンスで臨み、同線を下抜けた場合は手仕舞い。

レジスタンス1	78.46(8/31 高値)
前日終値	78.12
サポート1	76.96(日足一目均衡表・転換線)

